

研人傳

塚

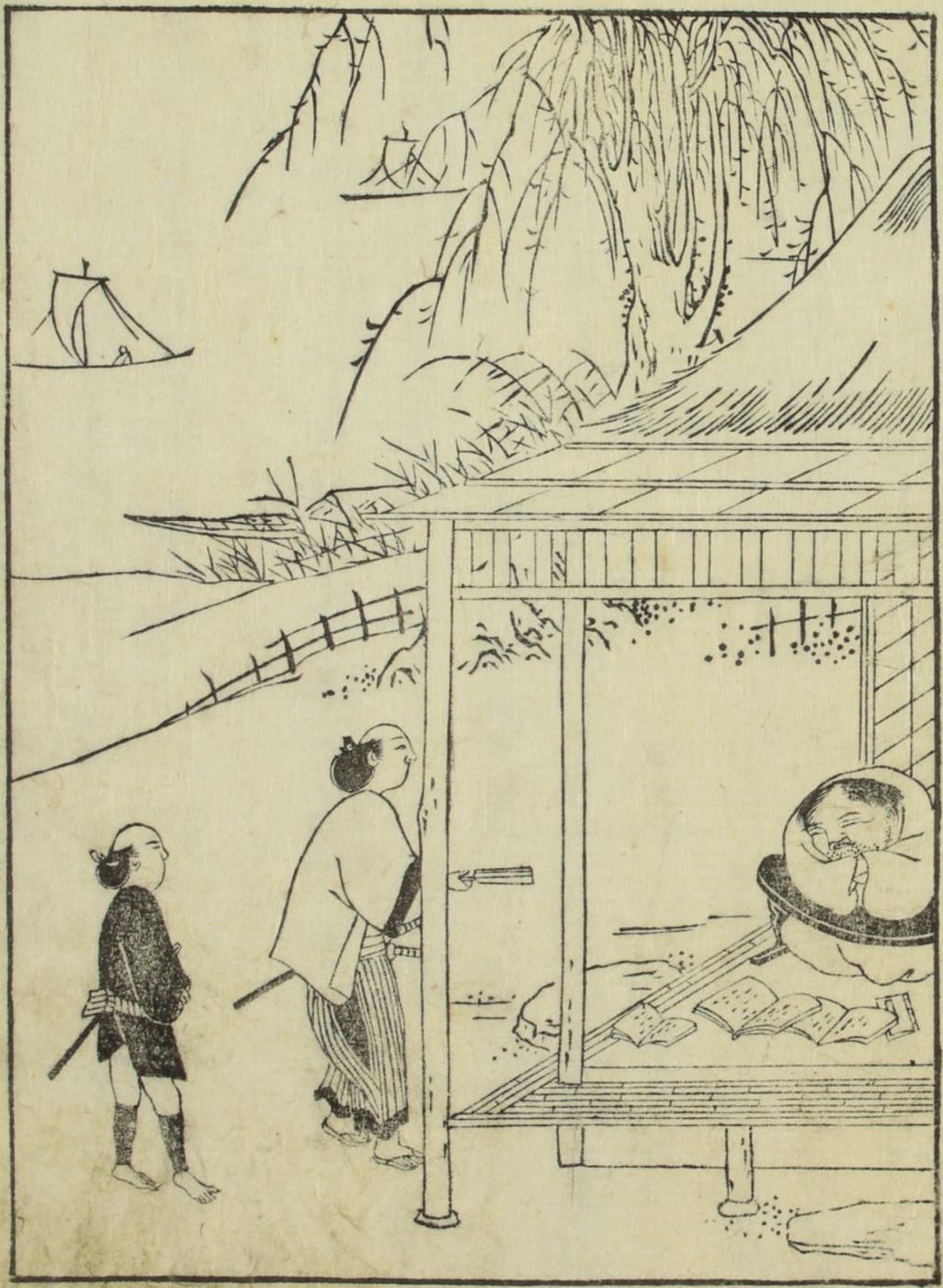
浪士長流

ひたしはてききる幸一のまじりて

あゝい母しむのよきと具平の心をさうり、和明
宇田の養父のふきとていりあるいそしめれと
ねくねくもつゝもつゝよりあはれかゝりて中より
けのふふねのいりふねをたへりねとまを
しよ中ふも舞しきりるゝ万葉集古方集修か
物終るゝの情記いりりるゝまのつゝ情記
て、大坂の商人多くかきりるゝまのつゝ
流り人づゝにけりあはれいりるゝまのつゝ
よふもねもねもねもねもねもねもねもねも
ねもねもねもねもねもねもねもねもねも

研人傳

此處のさむらひり子にれは清操とに書れは遠近
 しむれはさむらひり名かりもしむ流し曲地、里を原
 水集、續歌林長村、世経、燭明、世、可長、名、寄、也、也、
 書、暖、も、平、し、ま、ゆ、り、う、ら、ん、も、ゆ、ち、ゆ、り、
 中、世、も、さ、む、ら、ひ、り、の、藤、の、さ、む、ら、ひ、り、の、さ、む、ら、ひ、り、
 世、の、さ、む、ら、ひ、り、の、さ、む、ら、ひ、り、の、さ、む、ら、ひ、り、
 ち、さ、む、ら、ひ、り、の、さ、む、ら、ひ、り、の、さ、む、ら、ひ、り、
 せ、む、ら、ひ、り、の、さ、む、ら、ひ、り、の、さ、む、ら、ひ、り、
 せ、む、ら、ひ、り、の、さ、む、ら、ひ、り、の、さ、む、ら、ひ、り、
 万、里、の、世、経、は、代、道、絶、り、向、く、ん、世、久、又、季、吟、拾、穂、歌
 小、世、経、の、世、経、の、世、経、の、世、経、の、世、経、の、世、経、の、世、経、
 の、世、経、の、世、経、の、世、経、の、世、経、の、世、経、の、世、経、の、世、経、



乃其不あつたれが多し、并の折に契沖師とみ入
目が富の契沖十七歳の時のこととて、
歎く、可なりとて、
契沖の徒海剛と
うめり人

僧 契沖 相門人 於并初開 海山表沖

僧 契沖、津室に、俗姓の川氏、
生部、
小竹入、
十七歳、
百入、
契沖、
後と、

の事、
神、
深、
の、
し、
と、
定、
し、
多、
為、

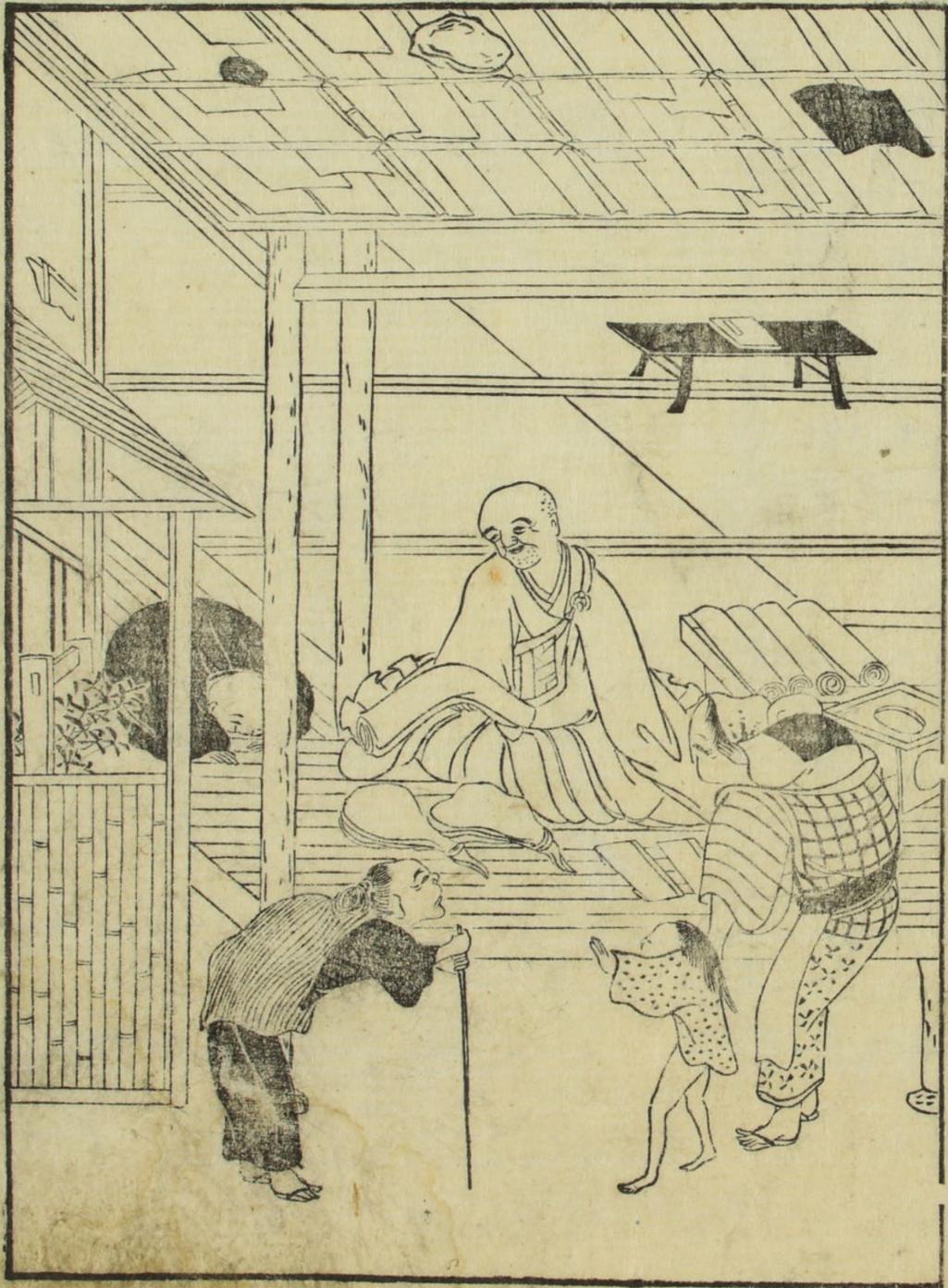
採りし海、寛文二年、檀越の清より、採りし
 生玉曼荼羅、淨土有り、歌して、其、歌、
 清く、白く、す、き、と、い、ひ、ひ、勢、く、ふ、丹、と、歌、
 く、道、生、一、豈、つ、所、こ、ふ、ま、あ、く、久、和、の、所、
 名、區、の、所、入、古、名、の、山、こ、の、谷、を、絶、念、誦、一、七、
 宗、生、ふ、こ、の、煉、石、こ、の、方、ふ、入、（兼別、世、の、り、り、を、
初、身、と、い、ひ、て、こ、の、ふ、
所、を、採、り、し、て、又、之、野、山、丹、お、ち、り、り、古、名、流、成、と、名、
 寺、杖、圓、ふ、う、も、竹、律、益、法、若、と、泉、叫、之、子、の、里、
 六、從、之、山、火、の、音、と、名、一、竹、の、こ、の、年、あり、之、
 藏、と、名、一、自、此、泉、の、章、一、流、及、場、典、詩、之、集、
 竹、ふ、こ、の、詩、稱、と、名、一、り、り、り、り、後、の、山、の、り、り、
 の、ま、一、又、此、田、川、の、例、ふ、お、そ、福、く、皇、朝、の、靈、

採りし海、寛文二年、檀越の清より、採りし
 採り、正、宗、大、年、一、河、内、鬼、谷、の、正、宗、一、ち、是、處、一、
 採、一、あ、流、灌、頂、と、名、一、儀、軌、二、百、餘、名、と、名、
 採、一、ま、一、生、駒、廣、山、寺、小、池、心、同、八、年、本、
 子、定、寂、と、名、一、り、一、法、念、一、一、妙、法、寺、小、池、持、
 寺、一、心、師、と、名、一、り、一、好、い、あ、ま、あ、り、ば、れ、と、名、
 老、一、と、名、一、り、一、り、と、名、一、り、一、り、と、名、一、り、
 採、一、ふ、一、り、一、り、一、り、一、り、一、り、一、り、一、り、
 水、戸、西、山、義、三、と、名、一、り、一、り、一、り、一、り、一、り、
 採、一、河、内、梨、一、と、名、一、り、一、り、一、り、一、り、一、り、
 採、一、采、一、り、一、り、一、り、一、り、一、り、一、り、一、り、
 採、一、采、一、り、一、り、一、り、一、り、一、り、一、り、一、り、
 採、一、采、一、り、一、り、一、り、一、り、一、り、一、り、一、り、

時人傳三

五

行来し、鏡とうめ事とそ入所、之振十四年正
 月、微恙し、しり廿四日、ふらりて、病革る、故に、後
 子永法と告、且、能くあをとあ、し、浦泉河、曰、所
 介、河、字、不、名、也、賦、一、経、る、や、野、々、善、曰、無、つ、こ
 此、一、人、年、ち、ふ、し、て、美、家、あ、る、ら、う、来、日、年、ち、
 美、別、矣、あ、る、こ、し、し、た、ま、を、曰、心、年、ち、と、い、ふ、事、
 美、別、あ、る、也、美、家、の、中、心、年、等、ふ、南、の、む、つ、つ、と
 了、し、と、死、せ、と、此、一、條、別、是、事、は、病、中、の、
 身、死、と、事、大、に、同、く、た、る、事、也、 美、日、定、印
 跡、彼、法、法、と、て、遊、す、め、年、六、十、二、庵、後、は、兼、り、
 所、あ、る、寛、永、年、ち、入、茶、練、結、方、の、ゆ、い、を、あ、ら、ん
 と、小、部、ち、ち、と、鏡、者、あ、れ、が、し、こ、と、聞、く、遊、る、所
 ち、そ、梅、辨、南、河、の、織、と、い、ふ、こ、あ、ら、う、と、い、ふ、事、



正記憶此類より一は、系珠爲りて万葉と云ふ、
 百九の事、實指し、その歌、
 歌、
 事は人ありて、
 心と自と、
 拾遺八卷、
 二卷、
 又書、
 爲章、
 新、
 新、

と、
 一、
 物、

右、
 南、
 於、
 此、
 於、
 於、
 於、
 於、
 於、
 於、

新入道三

始末とていへば、安藤氏よりその約言の終、又、
歌子卓絶といふこと、是は其録事のこと、并
多とて、師と稱する者、師とて、そのよきあり
とて、いつか、三編あり(けし)

高嶺、又、按、師の歌学、歌眼法橋の終と稱と
して、古書とて人のいへり、其を始なり、元道
此れ、人唯中川の流の終なり、此れを終り
とて、いつか、その終、その終、その終、その終、
終つる、道あり、この終、この終、この終、この終、
國とて、その終、一筆一終、終つる、その終、
その終、其は、道あり、その終、その終、その終、
その終、その終、その終、その終、その終、その終、

けし、終つる、その終、その終、その終、その終、
と、終つる、その終、その終、その終、その終、
その終、その終、その終、その終、その終、その終、
おき、その終、その終、その終、その終、その終、

その終、その終、その終、その終、その終、その終、
その終、その終、その終、その終、その終、その終、
その終、その終、その終、その終、その終、その終、
其終、その終、その終、その終、その終、その終、

その終、その終、その終、その終、その終、その終、
その終、その終、その終、その終、その終、その終、
その終、その終、その終、その終、その終、その終、
その終、その終、その終、その終、その終、その終、

二十九日ありきり

素著の巻をくらぶらふのてらるる東の巻のそらるるてらるる
續絶のりした

やゝとせくせりのてらるるや絶てのてらるる
あゝとせ流のてらるるやうゝとせあゝとせ
ゆのふとせとせとて絶味ありむとせ
所あり

○門人今予の閑見半と馬氏京師の人
岳とせくせりのてらるる河のてらるる
何りけとせくせりのてらるる
追半のてらるる 所著万其緯あり又
加茂の神庫のてらるる

○何く河のてらるる
新著のてらるる
○何く世のてらるる
とせくせりのてらるる
何くせりのてらるる
何くせりのてらるる
何くせりのてらるる
何くせりのてらるる
何くせりのてらるる

又柏傳と
何くせりのてらるる

○京師の権に... 圓珠... 文と五斗蘭洲...
○京師の権に... 圓珠... 文と五斗蘭洲...
○京師の権に... 圓珠... 文と五斗蘭洲...

○京師の権に... 圓珠... 文と五斗蘭洲...
○京師の権に... 圓珠... 文と五斗蘭洲...
○京師の権に... 圓珠... 文と五斗蘭洲...

荷田春滿

春滿、河... 此の荷田高... 此の荷田高...

○京師の権に... 圓珠... 文と五斗蘭洲...
○京師の権に... 圓珠... 文と五斗蘭洲...
○京師の権に... 圓珠... 文と五斗蘭洲...

よふとらりて、生座恋舞と称す。以てその象集と云ふ
一、南唐ふし書と云ふ。此は唐の事なり。その物と雜
ふふとらりたる。たゞ虎の事と云ふ。其の類と云ふ
也。

魂と云ふ。此は巴控使の事なり。虎の事と云ふ。其の類と云ふ

日本紀欽明卷の故事。小よりして清まるとも。孝者の志

けり。巴控使の事。此は唐の事なり。虎の事と云ふ。其の類と云ふ

巴控使の事。此は唐の事なり。虎の事と云ふ。其の類と云ふ

○在滿 滿字はとて 毎名東に赴春滿の地。日

一、此の事と習入。大令會具釋。日使家と

著と。今代故事の記。此は唐の事なり。虎の事と云ふ。其の類と云ふ

眼と。此は唐の事なり。虎の事と云ふ。其の類と云ふ

信と。此は唐の事なり。虎の事と云ふ。其の類と云ふ

久と。此は唐の事なり。虎の事と云ふ。其の類と云ふ

又百人一首古説。此は唐の事なり。虎の事と云ふ。其の類と云ふ

世の事はまた又公の如くは、
生い倒りうらむ事なく、
開業ししては、
うれ書は世傳の如くありて、
在備よりん、
あり、
て所、
の府、
を、
○生、
け、

後、
あり、
ふ、
と、
き、
物、
あ、
と、
り、
古、
知、
解、

Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 15 lines of dense cursive writing.

Handwritten text in Arabic script, consisting of approximately 15 lines of dense cursive writing.

مستحقان و مستحقین را در این کتاب ذکر کرده است
و در هر یک از اینها توضیح داده است

و در هر یک از اینها توضیح داده است
و در هر یک از اینها توضیح داده است

و در هر یک از اینها توضیح داده است
و در هر یک از اینها توضیح داده است

و در هر یک از اینها توضیح داده است
و در هر یک از اینها توضیح داده است

و در هر یک از اینها توضیح داده است
و در هر یک از اینها توضیح داده است

و در هر یک از اینها توضیح داده است
و در هر یک از اینها توضیح داده است

و در هر یک از اینها توضیح داده است
و در هر یک از اینها توضیح داده است

و در هر یک از اینها توضیح داده است
و در هر یک از اینها توضیح داده است

و در هر یک از اینها توضیح داده است
و در هر یک از اینها توضیح داده است

و در هر یک از اینها توضیح داده است
و در هر یک از اینها توضیح داده است

و در هر یک از اینها توضیح داده است
و در هر یک از اینها توضیح داده است

و در هر یک از اینها توضیح داده است
و در هر یک از اینها توضیح داده است

Handwritten text in Arabic script, likely a translation or commentary on a classical text. The script is dense and fills most of the page.

Handwritten text in Japanese cursive (sōsho) style. The text is written vertically and includes several lines of characters. Some characters are written in a more formal style, while others are highly stylized cursive.

西人作三

いづれ秋と草とよも小舟をりてはく波よ
碑又國字とて三洲著して墓とせり
よの秋葉持ふゆ

桃山隱者 阿多倉御門守

いづれ秋と草とよも小舟をりてはく波よ
碑又國字とて三洲著して墓とせり
よの秋葉持ふゆ
いづれ秋と草とよも小舟をりてはく波よ
碑又國字とて三洲著して墓とせり
よの秋葉持ふゆ
いづれ秋と草とよも小舟をりてはく波よ
碑又國字とて三洲著して墓とせり
よの秋葉持ふゆ



しつとて斗の化よん、其のて勢ふるふ、そのふるも
書紙をくけし、其まづふに、書とてん長りたるが
しつとて斗の化よん、其のて勢ふるふ、そのふるも
しつとて斗の化よん、其のて勢ふるふ、そのふるも
しつとて斗の化よん、其のて勢ふるふ、そのふるも

佐田儀多衛

佐田新太郎佐田色小 佐田の傳年天ノ訓也 儀多衛トリ
其のて勢ふるふ、そのふるも、二十有餘、
其のて勢ふるふ、そのふるも、二十有餘、
其のて勢ふるふ、そのふるも、二十有餘、
其のて勢ふるふ、そのふるも、二十有餘、

其のて勢ふるふ、そのふるも、二十有餘、
其のて勢ふるふ、そのふるも、二十有餘、
其のて勢ふるふ、そのふるも、二十有餘、
其のて勢ふるふ、そのふるも、二十有餘、
其のて勢ふるふ、そのふるも、二十有餘、
其のて勢ふるふ、そのふるも、二十有餘、
其のて勢ふるふ、そのふるも、二十有餘、
其のて勢ふるふ、そのふるも、二十有餘、
其のて勢ふるふ、そのふるも、二十有餘、
其のて勢ふるふ、そのふるも、二十有餘、

... 彼等の... 織田信長のお... 徳と... 一... 是... 母... 孝... 徳...

徳と... 一... 是... 母... 孝... 徳... 徳と... 一... 是... 母... 孝... 徳...

徳と...

一...



長崎鐵人

長崎の人の某氏 去る年 酒と嗜む人よと云れり
樽を舞ひ舞も、いせけ米穀よりか
一的、暇を食、知者の人、食と物、
あててうもま、其の思とく、
か、や、い、つ、の、小、思、
せ、と、あ、の、儒、士、西、川、氏、の、記、
私、拙、撰、う、鐵、人、
の、謝、
や、

晴八外三

乞巧とていつの嵯峨とてゆくふとて謝を乞
 食べ〜いつのむけか、商人の志意とて
 友よ射とて道に〜いつのゆく〜とて〜
 友よ射とて道に〜いつのゆく〜とて〜
 返るは相御の鼻〜おのり〜とて、但〜次〜
 袋とて存じ〜とて〜とて〜とて〜
 ち、もふのつ〜人〜毛髪〜
 相者龍袋

御袋と赤塚の〜とて〜とて、却て〜とて〜とて〜
 村と標と〜名重と〜通名と〜
 ち〜とて〜、高人〜とて〜とて〜
 ち〜とて〜、相者〜とて〜とて〜、相者の〜とて〜

沈沈とて〜、おとよ〜とて〜とて〜
 會〜とて〜、血色〜とて〜とて〜、花見〜とて〜
 と〜とて〜、おのり〜とて〜とて〜
 お〜とて〜、お〜とて〜とて〜
 お〜とて〜、お〜とて〜とて〜
 ち〜とて〜、お〜とて〜とて〜
 ち〜とて〜、お〜とて〜とて〜
 ち〜とて〜、お〜とて〜とて〜
 ち〜とて〜、お〜とて〜とて〜
 ち〜とて〜、お〜とて〜とて〜
 ち〜とて〜、お〜とて〜とて〜

相するふ必む術を授てい曰相善といひし
志不善ならんは是なり相の不善も亦能志行
とて持てい又曰相を看る人亦善なり
相を好するを梯とて吾は孤相なり孤相なり必
貧なり孤なり吾て貧と安んずとて其家と
無りよ人小漢り一子新江舟といふは其の翻
す善いはやく夫れこれ獨りして食ふれを
貧るもあつたは食後まゝの色に人おはふと
告てい曰我儂死の相あり後よけき地の延
費づつて死とまゝより門戸を用出ると禁つては食
取れぬ後ぬきり歎かす有る也

按、その相をり人まゝ培養又まゝと

善く相するはけ人相よりしては行と善なり
る奇特也、於蜀の巖君平の愛下にありて
人を奪くがふ、自統相なり、つひ小
飲死するは甚しけき人小宗とて人
る飲の相して漢都通る縁死のおも
くして、終よ長公之の長命を任り、一獲も
去省と死まるといふ、宗死く人又と班
史より人くくくくくくくくくくく死
るふくくくくくくくくくくくくくくく
死せぬるふりづつては善く人といふなり

森金吾

森金吾、東の河内國小鳴戸の里人なり、弱冠より

〜たる昔のうたれどお〜りけしきも

太田見長

釋之庵

詩傳竟一芝 佃一房

若田之長字賢之孫、伊豫大洲加藤侯の士也。其
これ之を以て其の末師と稱す。其の富商某、僕と
孫す。其日、衆道進出、適其人を席とす。其不
衆道皆伏す。人前して善悦とす。其見長久し
私して復そのしりし。其後其の侯の善の官家
嫡子、其小長と稱す。其後、養生所に居りて
其く、其の病を治す。其脚に疾あり。其極と
稱して、其の病を治す。其極と稱する。其
言、其病を治す。其病を治す。其病を治す。

其孫、其の病を治す。其病を治す。其病を治す。
其孫、其の病を治す。其病を治す。其病を治す。
其孫、其の病を治す。其病を治す。其病を治す。
其孫、其の病を治す。其病を治す。其病を治す。
其孫、其の病を治す。其病を治す。其病を治す。
其孫、其の病を治す。其病を治す。其病を治す。
其孫、其の病を治す。其病を治す。其病を治す。
其孫、其の病を治す。其病を治す。其病を治す。
其孫、其の病を治す。其病を治す。其病を治す。
其孫、其の病を治す。其病を治す。其病を治す。

ひまわりの度、和尙疾まゝに...
と客の...
感も、又黄葉...
の志決せ...
○釋...
其角...
專...
市袋...
ふは、如尙...
長士...

帯小...
中...
す...
長士...

若小...
若...
若...

衣...
京...
き...

原門の神家とつゞえ、秩弁岡竜のたゞ一嘗
本山の幹事とつゞえ、秩弁岡竜のたゞ一嘗
とき、俣岡、水高ハも、全割の姓作、行の格、
あり、美白、全割ハも、全割の格あり、と、平生、秩
甲、此、格、其、中、一、回、耳、目、小、額、の、こと、行、の、
ふ、ら、次、く、と、居、る、と、つ、つ、小、領、の、装、束、衣
ま、で、自、裁、縫、し、て、居、る、と、つ、つ、又、医、業、の、こと、も
見、ま、す、ふ、ら、次、く、秩、弁、と、つ、つ、心、作、と、つ、つ、人、は
格、で、医、業、と、つ、つ、あり、と、つ、つ、切、し、て、格、と、つ、
こ、こ、次、つ、つ、と、つ、つ、水、高、の、医、業、と、つ、つ、
ふ、ら、次、く、と、つ、つ、と、つ、つ、と、つ、つ、と、つ、
と、つ、つ、と、つ、つ、と、つ、つ、と、つ、つ、と、つ、
と、つ、つ、と、つ、つ、と、つ、つ、と、つ、つ、と、つ、

つ、つ、と、つ、つ、と、つ、つ、と、つ、つ、と、つ、
遷、移、の、時、は、遺、物、と、つ、つ、
あ、ら、う、侍、者、も、つ、つ、と、つ、つ、と、つ、
と、つ、つ、と、つ、つ、と、つ、つ、と、つ、つ、
つ、つ、と、つ、つ、と、つ、つ、と、つ、つ、
の、つ、つ、と、つ、つ、と、つ、つ、と、つ、つ、
に、一、傳、と、つ、つ、と、つ、つ、と、つ、つ、
の、つ、つ、と、つ、つ、と、つ、つ、と、つ、つ、
と、つ、つ、と、つ、つ、と、つ、つ、と、つ、つ、
○原、松、門、人、は、原、元、細、筋、と、つ、つ、は、流、河、八、橋、の
人、と、つ、つ、と、つ、つ、と、つ、つ、と、つ、つ、
と、つ、つ、と、つ、つ、と、つ、つ、と、つ、つ、

時、人、考、三

三、十、六

月夜思
夕露沾我衣
衣沾不足惜
但使願無違
道狹草木長
露沾我衣裳
夕露沾我衣
衣沾不足惜
但使願無違
道狹草木長
露沾我衣裳

田人卷三
夕露沾我衣
衣沾不足惜
但使願無違
道狹草木長
露沾我衣裳
夕露沾我衣
衣沾不足惜
但使願無違
道狹草木長
露沾我衣裳

千七百九十一年ノ十一月ニ至リテ
シテズクニイダシクノノクノノク
ハシクノノクノノクノノクノノク
ノノクノノクノノクノノクノノク

千七百九十一年ノ十一月ニ至リテ
シテズクニイダシクノノクノノク
ハシクノノクノノクノノクノノク
ノノクノノクノノクノノクノノク
千七百九十一年ノ十一月ニ至リテ
シテズクニイダシクノノクノノク
ハシクノノクノノクノノクノノク
ノノクノノクノノクノノクノノク

西ノ傳卷ノ三ノ終

